

学習支援担当者の能力開発の現状と課題

— 教員・学生・専門職を事例として —

企画者・司会者：清水栄子（追手門学院大学 基盤教育機構）

企画者：岸岡奈津子（立命館大学 学生部 OIC 学生オフィス）

企画者：山崎その（京都外国語大学 総合企画室）

話題提供者：井原奉明（昭和女子大学 国際学部）

話題提供者：竹中喜一（愛媛大学教育・学生支援機構）

話題提供者：井上咲希・中野正俊（金沢大学国際基幹教育院）

指定討論者：中井俊樹（愛媛大学教育・学生支援機構）

企画の趣旨

学生の学習を促すために、各大学では学習支援が実施されている。近年、教職員に加え、学生および学習支援を専門に担う専門職が新たに加わっている。支援内容や担当者は、大学の方針によって選択されている。方針の決定には、学生のニーズも考慮されている。

本企画セッションでは、学習支援の担当者に必要とされる能力とその能力開発の現状と課題に焦点を当て、話題提供による事例の共有と会場との議論を通して明らかにする。担当者として、教員、学生、専門職を取り上げる。論点として（1）各担当者が担っている学習支援内容とはどのようなものか、（2）そのために必要とされる能力とは、（3）どのような能力開発が実施されているのか、という3点を設定する。

話題提供 1 教員による学習支援（井原 奉明）

昭和女子大学では、クラスアドバイザー制を敷き、クラスアドバイザーを学習支援担当者と位置づけて学習支援を行っている。クラスアドバイザーは、「学生が充実した学生生活を送るための拠点」を作り、「教員と学生相互の協調と協力の下、学問研究・人格形成を図る場」としてクラスを位置づける。そして、教育研修上有益な全体の場合として機能させるとともに、個々の学生の学修・生活・進路における適切なアドバイジング（助言及び指導）を行っている。

組織的な能力開発という観点から、クラスアドバイザーの能力開発として、①支援についての考え方の共有、②支援方針や内容の明示、③実践方法の研修④実践事例の学習や相談、意見交換、④OJT（先輩教員からの指導）があげられる。

話題提供 2 学生による学習支援（竹中 喜一）

もともと学生による学習支援を行う大学は多い。近年においては、学部生をチューターとして登用する、ICTを用いて遠隔で行うなど、学習支援の担い手や道具が多様化しつつある。こうした学習支援を行うにあたっては、指導の質の保証や、ICT技術の習得、コミュニケーションの取り方など、新たな課題が生じていることも考えられる。

本報告では、そういった学習支援の萌芽的ともいえる取組を行う大学の事例を取り上げ、そこで学習支援を行う学生を対象とした能力開発の特徴について考察する。特に、チューターとなる学生同士の学び合いやロールプレイなど、先に述べた新たな課題にも対応可能な研修あるいは OJT（On the Job Training）の方法に着目する。

話題提供 3 専門職による学習支援

（井上 咲希・中野 正俊）

金沢大学は 2018 年度より「総合教育部」という 1 年次に共通教育を取りながら自分の進路を考え、2 年次に学類に所属するという新しい制度を開始した。この学生たちの進路選択支援を行うのがアカデミック・アドバイザーの役割であり、情報提供、面談、学習支援等の活動を行っている。これらの業務を本務としている。担任教員や学類の担当教員、事務室など様々な部局と連携を取ることにも欠かせない。現在アカデミック・アドバイザーに対する組織的な研修は行われていないため、能力開発の機会は個人に委ねられている。教員格での採用のため、研究費を使い他大学への訪問、各種セミナー・学会への参加等を通して能力開発を行っている。それらを共有する場も設けており、昨年度は外部から講師を呼び、担任教員を対象としたセミナーを実施した。